

2025 年度 核融合科学研究所スクーリング・ネットワーキング事業
実施報告書

| 学生インターンシップ | | | |
|--------------------------------|---|--------------------------------------|---------------|
| 実施責任者 | 所属機関・部局： [REDACTED] | 学部学科等名・ 学年：[REDACTED] 博士前期課程2年 | 氏名： 松岡聖人 |
| 実施責任者連絡先 | 電話： [REDACTED] | E-mail： [REDACTED] | |
| インターンシップ 派遣責任者 | 所属機関・部局： [REDACTED] | 職名及び本人との 関係：[REDACTED] | 氏名：[REDACTED] |
| 研修期間 | 2026 年 2 月 17 日 ～ 2026 年 2 月 28 日 (12 日間) | | |
| 研修先機関及び 受入責任者 | 機関等名：TAE technologies 受入責任者名：[REDACTED] E-mail：[REDACTED] | | |
| 得られた成果等 (行数は適宜増や してください) | <p>1. 本事業によって得られた成果のうち特筆すべき事項</p> <p>特筆すべき成果は、今後の研究に直接役立つ議論と、共同研究のための国際的なネットワーク形成である。</p> <p>TAE technologies をはじめとする複数の機関を訪問し、実施責任者の研究内容に関する議論を行った。これにより、研究発表と議論を英語で行う経験と、今後の研究に直接役立つ助言が得られた。また、訪問先の一つである DIII-D 装置 (General Atomics 社) を用いた共同研究の実施可能性について議論することができた。更に、TAE technologies で行われている研究との親和性から、共同研究の可能性があることについて合意を得ることができた。</p> <p>2. その成果が核融合分野の人材育成に果たした (果たすと期待される) 事項</p> <p>英語で議論する能力は、今後国際協力、競争が加速すると考えられる核融合分野に貢献するために必須の基礎能力である。さらに、国際的な共同研究の基盤は、同様の物理の装置間比較といった所属機関のみではなし得ない研究を行うために非常に重要である。これらの点から、本事業により得られた成果は、実施責任者が今後博士後期課程・その先の研究を行い、核融合分野に貢献する上で非常に有益である。</p> <p>3. 研修先研究者 (グループ) の熱意、態度、研究レベル等に関して参考となる事項</p> <p>研修先の TAE technologies では、特に C-2W 装置を用いた様々な分野の専門家が集まっており、実験、計測、理論など幅広い範囲の研究を高いレベルで行っていた。また、オフィスと居室は非常にオープンなつくりとなっており、技術者を含む職員が気軽に集まって議論する空気が醸成されていた。</p> | | |

※ 次頁に続きます。

| | |
|--------------------|---|
| | <p>4. 今後改善すべき点について参考となる事項</p> <p>共同研究のためのネットワーク形成を行うことができた一方、テーマ設定のような具体的な内容について議論を進めることができなかった。原因の一つは、特に General Atomics 社の訪問は1日のみであるなど、滞在期間の短さにあると考えられる。本研修で形成したネットワークを活用するために、帰国後もコミュニケーションを継続することが必要である。</p> <p>5. 本年度に引き続き次年度も同じ目的（あるいはそれに準ずる目的）で研修を計画している場合、本年度と異なる点及びその理由</p> <p>引き続き研修を行う際には、長期間滞在し、特定のテーマについて集中的に取り組むことを想定している。これにより得られるプロジェクト遂行の経験は、本研修で得られた成果に加え、限られた時間で課題を遂行する能力など、実施責任者の研究能力をさらに高められると期待される。</p> <p>6. 研修の概要、特に重要な課題などについて</p> <p>米国 TAE technologies 社に 10 日間滞在した。多数の研究者と議論することにより、研究能力と英語でのコミュニケーション能力の向上、国際的なネットワーク形成を目指した。実施課題として、TAE technologies、UC Irvine、General Atomics を訪問し、実施責任者の専門分野である高速イオンと波動の相互作用の物理に関する多数の専門家と議論を行った。議論の内容として、実施責任者が修士課程で行った研究発表と質疑応答と主とし、一部の研究者の研究内容についての質疑応答も行った。</p> <p>また、TAE technologies で用いられている実験装置 C-2W と、General Atomics で用いられている DIII-D 装置の見学を行い、計測システム等に関する説明を受けた。また、DIII-D を用いた共同研究、計測器の持ち込みの可能性について議論を行った。</p> |
| インターンシップにおける単位認定状況 | <input type="checkbox"/> 単位認定済 <input checked="" type="checkbox"/> 希望しなかった <input type="checkbox"/> 制度なし |
| 備考 | |